

発表：日本比較教育学会第 52 回大会 発表報告

A comparative perspective on how to employ student course evaluation in the context of Japanese and American higher education : A case study on Waseda University and the University of Washington
2016/06 報告者 助教 山岸 直司 (Yamagishi, Naoji)

大会名：日本比較教育学会 (Japan Comparative Education Society) 第 52 回大会

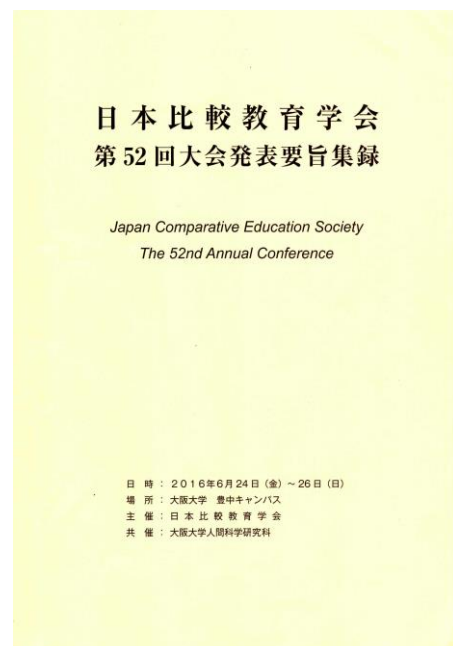
日時：2016 年 6 月 24 日 (金) ~26 日 (日)

場所：大阪大学 豊中キャンパス

発表部会

発表要旨集録

自由研究発表 IV-6 (英語部会)	部会名：Higher Education 6 月 26 日(日) 12:30 – 14:30
Keiichi Ogawa (Kobe Univ.)	Chairperson
発表者	発表題目
Vangchue Vangxaolee (Graduate School, Kobe Univ.)	An analysis of equity a Lao public universities: A focus on ethnicity
Eam Phyrom (Graduate School, Hiroshima Univ.)	Factor affecting research intention of Cambodian faculty
Hnin Oo Kyaw (Graduate School, Osaka Jogakuin Univ.)	Comparing English learning of university students in Myanmar and Japan
Naoji Yamagishi (Waseda Univ.)	A comparative perspective on how to employ student course evaluation in the context of Japanese and American higher education : A case study on Waseda University and the University of Washington



発表の概要

比較教育研究の趨勢

大学教育の改善に学生授業アンケートをどのように活用するのかという視点から、先進事例としての University of Washington (UW) と、UW と協力関係にある早稲田大学 (WU) の事例を比較した。検討から、両大学におけるアンケート結果の利用に関する様々な差異は、アンケート結果を大学全体の共有材とみなすか (UW)、各学部固有のものとするか (WU) という姿勢の違いに影響を受けているものと結論付けられた。

今大会の課題研究である「学力格差是正に向けた各国の取り組み」「グローバル化時代における教育を考えるー才能教育の視点からー」が象徴しているように、国境をまたいで展開するグローバル化とそれが生み出す国内あるいは国際的な学力差の拡大が重要な課題として注目されている。こうした課題の解決に向けて、高等教育の分野でも、大胆な入試改革や大学間連携が進められていることが報告され、参考となった。